

相対危険・寄与危険・オッズ比の計算問題

49 う蝕の疫学に横断研究が有効である理由はどれか。2つ選べ。

- a 疾患の進行が遅い。
- b 視診で診断が可能である。
- c 治療後に罹患の痕跡が残る。
- d 再石灰化によって自然治癒する。
- e 初期の段階では自覚症状がない。

121 正規分布で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 左右対称である。
- b 2変量の関係が示される。
- c 現在の3歳児dft数の分布である。
- d 平均値、中央値および最頻値は一致する。
- e 平均値±標準偏差の範囲に約95%が分布する。

44 研究を行ったサンプルにおいて、2群間の差を統計的に検定した結果と母集団における真理との関係を表に示す。

サンプル集団における 研究の結果	母集団における真理	
	差あり	差なし
帰無仮説を棄却	ア	イ
帰無仮説を棄却せず	ウ	エ

第1種の過誤はどれか。1つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d アとエ
- e イとウ

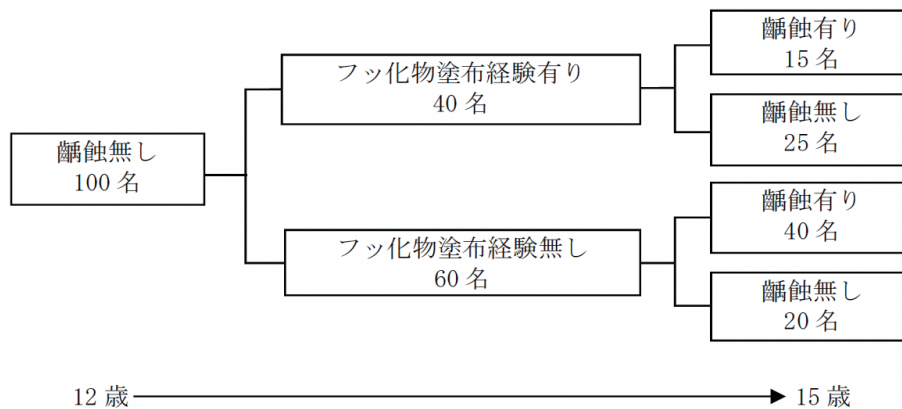
87 30歳時点でのCPI診査で所見を認めなかった200人を対象に前向きコホート調査を実施した。20年後の再診査の結果を表に示す。

コード	喫煙者	非喫煙者
0	25人	60人
1	25人	20人
2	34人	12人
3	10人	6人
4	6人	2人
合計	100人	100人

4 mm以上の歯周ポケット保有者の喫煙の相対危険度はどれか。1つ選べ。

- a 1.7
- b 1.9
- c 2.0
- d 2.5
- e 3.0

53 齲蝕の無い12歳児100名を3年間追跡し「フッ化物塗布経験の有無」と「齲蝕罹患」との関係調べた結果を図に示す。



フッ化物塗布の経験があることによって齲蝕発症の危険度が何倍になったことになるか求めよ。

ただし、小数点以下第2位を四捨五入すること。

110 施設入所高齢者を2群に分け、介入群に対しては専門的口腔ケアを実施し、対照群には従前の口腔ケアを実施した。その結果を表に示す。

	肺炎発症	肺炎発症せず	計
介入群	11名	89名	100名
対照群	18名	82名	100名
計	29名	171名	200名

介入群の対照群に対する肺炎発症の相対危険度を求めよ。

ただし、小数点以下第2位を四捨五入すること。

90 喫煙者1,000人と非喫煙者1,000人を10年間追跡調査した結果、喫煙群から24人肺癌が発生した。この研究での喫煙の肺癌に対する寄与危険度は0.016であった。

喫煙の肺癌に対する相対危険度を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第2位を四捨五入すること。

89 歯周炎の認められない集団を 10 年間追跡調査し、得られた結果を喫煙者と非喫煙者に分けて表に示す。

	観察数(人)	歯周炎発症数(人)
喫煙者	100	32
非喫煙者	250	25

喫煙の歯周炎発症に対する寄与危険度を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第 3 位を四捨五入すること。

65 ある地域の 3 歳児を対象として症例対照研究による乳歯齲蝕要因調査を行った。結果を表に示す。

要 因	オッズ比
仕上げ磨きをする	0.5
スポーツドリンクの摂取	3.0
祖父母の同居	1.0
間食の時間が決まっていない	5.0
哺乳瓶の使用	3.0

最も優先すべき対策はどれか。1 つ選べ。

- a 仕上げ磨きの指導
- b スポーツドリンクの摂取制限
- c 祖父母への保健指導
- d 間食の規則的摂取の指導
- e 哺乳瓶の使用法の指導

53 3歳児歯科健康診査において、齲蝕のある者200人と齲蝕のない者200人についてフッ化物歯面塗布の経験を調べたところ、それぞれ25%と40%であった。

フッ化物歯面塗布経験の齲蝕に対するオッズ比を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第2位を四捨五入すること。